

2017年1月6日

「2017年 代表取締役社長・山中 明 年頭所感」

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
新しい年を迎えるにあたり、昨年の振り返りと本年以降の取り組みについて述べさせていただきます。

◆ 2016年 Vehicle-ICT 事業を強化、現地主導の商品企画や技術開発に着手

2016年は自動運転やコネクテッドカー、環境車両の実現に向けた大きなうねりが本格化してまいりました。それに伴い、基盤となるAI(人工知能)やビッグデータ分析、クラウドサービスといった先端ICTの活用によるグローバルでの技術開発競争が激しさを増してまいりました。

そのような中、当社では成長軌道に向けて“つながる”車載情報システムのコンセプト「**Future Link**」※1を推進しております。センシング技術に磨きをかけ Vehicle-ICT 事業を強化するため、VICT 技術本部を設置するとともに、AIを活用した先進機能の開発にも着手いたしました。「Future Link」を具現化した“つながる”商品・サービスとしては、通信型ドライブレコーダーを活用した「安全運転管理テレマティクスサービス」、ドライブレコーダーを内蔵したカーナビゲーションシステム「録ナビ」※2を発売いたしました。

また、地域毎に異なるお客様のニーズへの迅速かつ的確な対応を目指し、「マーケットに近い拠点が責任を持って事業を推進する」という基本方針を掲げ、従来日本が中心となり担ってきた商品企画や技術開発を地域の統括会社に移管する、新たな体制の構築にも着手いたしました。

◆ 2017年 次世代を担う事業を創り、育てる“コトづくり”の実現に向けて挑戦を続ける

自動車業界が新たな時代に突入し大きな変革期を迎える中、自動車メーカー間の提携や自動車メーカーとIT・ベンチャーによる連携といった従来の枠にとらわれない動きがさらに活発化していくことが予想され、競争はますます熾烈化していくと認識しております。

2017年度は2020年代を見据えた事業の基盤づくりとして足下を固める「事業体質の強化」に加えて「次世代を担う事業を創り、育てる“コトづくり”」の実現に向けて果敢に挑戦を続けてまいります。具体的には、センシング/AI/ビッグデータ等の分野で積極的に技術開発を進めるとともに、自動車メーカー、仕入先、新たなパートナーとの間で従来の発想を超えた枠組みを構築しての共創・協業に取り組み、現在保有する要素技術の進化と融合、さらに新たな知見の獲得を含め次世代の領域に挑戦いたします。

本年は当社にとって新たな一步を踏み出す変革の年です。昨年、当社株主間で資本構成の変更に向けた協議が開始されました。資本構成の変更は当社の技術力をより発揮するとともにビジネスチャンスを拡大し、さらなる発展を目指すものです。

2020年には源流となる川西機械製作所の創立から100年を迎えます。綿々と培ってきた技術やノウハウ、市場やお客様の期待に真摯に向き合い愚直に応えるテンのDNAを揺らぎなく貫き通し、「誠は天の道なり」の心を大切にし次の世代にもしっかりと継承してまいります。

※1 Future Link(フューチャーリンク)は、富士通テン株式会社の登録商標です。

※2 録ナビ(ロクナビ)は、富士通テン株式会社の商標です。

配信先	日時
神戸経済記者クラブ/大阪機械記者クラブ/中津川記者会/小山市記者クラブ/業界紙 他	2017年1月6日(金)14:00